

会 議 録

1 会議名

令和5年度 第7回中郷区地域協議会

2 議題（公開・非公開の別）

（1）報告（公開）

なし

（2）協議（公開）

- ・自主的審議事項「中郷区型コミュニティバスのあるべき姿」について
- ・視察研修について

（3）その他（公開）

3 開催日時

令和5年10月16日（月） 午後6時30分から午後7時55分まで

4 開催場所

中郷コミュニティプラザ ホール

5 傍聴人の数

0人

6 非公開の理由

—

7 出席した者（傍聴人を除く。）氏名（敬称略）

- ・委 員：竹内靖彦（会長）、荒川清尊、岡田龍一、高橋達也、竹内昭彦、宮川昇藏、村越勝彦、陸川昇一、陸川陽一（欠席3人）
- ・事 務 局：中郷区総合事務所 高波所長、加藤次長（総務・地域振興グループ長事務取扱）、宮尾市民生活・福祉グループ長（教育・文化グループ長併任）、桐山地域振興班長、津島地域振興班主事、恩田総務班長、早川税・市民生活班長、野坂教育・文化班長（以下、グループ長はG長と表記。）

8 発言の内容（要旨）

【桐山班長】

会議の開会を宣言。

上越市地域自治区の設置に関する条例第 8 条第 2 項の規定により、委員の半数以上の出席を確認、会議の成立を報告。

【竹内（靖）会長】

会議録確認を岡田龍一委員と高橋達也委員に依頼。

報告について、委員、事務局からないか。（なし）

協議に移る。自主的審議事項「中郷区型コミュニティバスのあるべき姿」について、協議を続けてきているところだが、令和 6 年度地域独自の予算事業に提案した 2 件の事業の概要を確認する。1 つ目の「中郷区型コミュニティバスのあるべき姿検証事業」について事務局に説明を求める。

【桐山班長】

非公開資料 No1 を基に説明。

【竹内（靖）会長】

今年度実施している事業から継続となる企画運行について、今年度は中郷区内を回るツアーを年間 20 回行うとしていたが、次年度は実施回数を減らす。公共交通の互助による運行が目前に迫り、前回までの協議でもそのことを想定して事業実施するという話になったが、新規の取組となるリクエスト運行にその想定が含まれている。現行の乗合タクシーと運行日時が被らないよう、土日のみ運行とする。

（受託予定である中郷区さとまる学校理事長の立場で）土曜日は食料品店や床屋といった駅前商店街を中心とした買い物支援にもなるような内容を想定している。日曜日は、駅前商店街が休みになるため、新井や関山まで足を伸ばしたり、中郷区には販売店がない日用雑貨品店や衣料店など、カテゴリーに分けて乗客が行きたいところへ行ったりする運行をイメージしている。

会員の優先乗車や、利用料の差など会員と非会員の線引きもしていかなければならないと考えるが、委員の皆さんからも意見をもらいたい。

【陸川（昇）委員】

今ほどの内容で良い。ある程度メニューを決めて募集をかけるようにしたら良いのではないか。

【竹内（靖）会長】

中郷区さとまる学校が社会福祉協議会から助成を受けて実施している買い物ツアーの参加状況を見ていると、高齢者の方は町内会単位での参加が多い。町内会

ごとに移動できるまとめ方も良いと思う。中郷区全域に募集をかけるのも1つのやり方である。

【竹内（昭）委員】

公平に運行することを思うと、中郷区全域での募集が良い。しかし、人が集まりにくいことや、町内会の仲間と一緒に行くのであれば行ってみたいという意見もあると思うため、町内会単位で行くのも1つの手段であると思う。事業開始直後は、1人での参加がしにくいのではないかな。

【宮川委員】

リクエスト運行について、事前登録者が集まるか不安である。町内会を通して集めてはどうか。

【竹内（靖）会長】

町内会長の負担が増えないようにしたい。

（中郷区さとまる学校理事長の立場で）皆さんからの意見の通り、いきいきサロン利用者から意見を聞くと、お年寄りにも町内会ごとのグループがあり、「〇〇さんと一緒にあれば行く」という話になりがちである。ニーズ調査をしながらやっていく、というイメージを持って進めていく。

会員と非会員の線引きについて、柿崎区のまちづくり振興会が運行する「はまなすバス（コミュニティバス）」では、会員と非会員の運賃を分けており、回数券を購入した会員が安く利用できる仕組みとしている。会員になった時のメリットを考えたい。

【村越委員】

会員と非会員の運賃を分け、会員が回数券を購入する仕組みは良い。回数券を買うことで利用も増えると思うので、ニーズ調査もしやすくなると思う。何かしら特典が付く回数券が良い。

【陸川（陽）委員】

お金に関する特典ではなく、例えば、行き先を月1回指定できるなどが良いのではないかな。

【竹内（靖）会長】

現在の地域独自の予算事業として中郷区さとまる学校が受託を受けて行っている運行では、ポイントカードを作り、ポイントが貯まると商品券と交換している。誰でも利用できるツアーであるが、互助による運行を目指すと高齢者が主なターゲットとなる。わかりやすくまとめなければならない。

【荒川委員】

私が所属する稲荷山町内会では、移動手段のない高齢者は、子どもや友人に買い物に連れて行ってもらっているようだ。利用者を募集して集まればよいが、集

めるのが大変ではないか。会員制の仕組みは、今後を見据えていてよいと思う。会員になってくれる人がたくさんいれば、我々が目指している事業になると思う。

【岡田委員】

会員の特典を考えるのは難しいが、リピーターを増やすのが1番良いと思う。

【高橋（達）委員】

事前登録していた人に誘われた人が途中からでも会員になれるのか。高齢者を主な対象としているが、中学生や小学生は利用出来るのか。子どもが遠方に行きたくても、親が忙しくて行けないという話も聞いたことがある。運行内容を企画・決定する段階で、これらの点についても考慮しなければならないかどうかについてもはっきりとしておく必要がある。特に規制をしないのであれば、それで良いと思う。

【竹内（靖）会長】

行き先だけは自由ではなく、いくつかのカテゴリーに分けて希望を取り、町内会ごとに集約してやってみてはどうかとイメージしている。

【高橋（達）委員】

まずは会員が集まるかどうかだと思うが、しっかりとカテゴリーを分けるのであれば、例えば、会員からカテゴリー外の行先へのリクエストがあった場合、そこへ行けるのかどうかを明確にしておく必要がある。

【竹内（靖）会長】

会員の集め方について、町内会に周知協力をお願いができないか。回覧や全戸配布をしても、ほぼ見ない人もいる。町内会と受託者が共通の認識を持つ必要がある。

【桐山班長】

利用者として想定している人たちに、どう周知したら申し込んでくれるかが1番検討すべき事項だと思っている。「リクエスト運行」は、利用者が集まらなければ意見を聞ける場がなくなってしまう。町内会長を通じて該当者に周知してもらうのも1つの手であり、お願いすればできるのではないか。4月にスタートする段階までに方法が決まっていれば良いと思う。

【高橋（達）委員】

3月ごろ地域協議会の活動報告会を行うが、PR出来る資料を準備してはどうか。言葉だけで説明しても難しいと思うため、作成しておいたPR資料を使って報告会で呼びかけ出来れば、4月から会員募集など実施することが出来る。4月になってから動き出したのでは遅いと思う。

【竹内（靖）会長】

中郷区の住民や町内会長が事業内容を理解しやすいPR資料やPR映像を作るための議論が改めて必要になる。

町内によって温度差はあるが、やはり移動手段に困っている高齢者がいる。今は親戚等の送迎で解決できているかもしれないが、5年、10年後の状況についてもみんなで考えていきたい。リクエスト運行については、慎重に決めていきたい。会員制のメリットについても、再度考え、まとめていきたい。

【陸川（昇）委員】

場所によって移動時間に差が出ると思うが、運行時間はどのぐらいの時間を考えているのか。午前、午後と分けるのか。

【竹内（靖）会長】

行先にもよるが、時間の設定は支出にも関わる。定員が8人であることは変わらないが、1日に2回運行しようとするこの予算では難しい。予算が決まったら、予算内に収まるように内容を合わせていかなければならない。

【陸川（昇）委員】

リクエスト運行について、行き先をある程度決めておき、その中から選んでもらうやり方が良いと思う。乗客のリクエストで行き先を決めるのもいいと思うが、新井方面なのか関山方面なのかなどを決めておくべきではないか。

町内会長だけでなく、老人会にも声をかけてみてはどうか。

【竹内（靖）会長】

カテゴリー分類にあたり、行き先を明確にしてやっていく。どこでも自由に移動することにはならない。利用者に寄り添っていくのがベストだと思う。土曜日は、「駅前商店街」というカテゴリーでリクエストをとれるようにしたい。

老人会がある町内でも移動手段の話は出ていると思うが、そこにも調査しながらやっていきたい。

【桐山班長】

事務局で会員の集め方について協議した際には、買い物に行きたい乗客が多いとの見込みから、買い物ツアーとして募集し、参加した人を後から会員とする案があがった。会員募集と言うと、何の会員なのか分からず参加しにくいのではないかと感じている。ツアー参加者の募集として会員を集めるやり方もあるのではないか。

将来の公共交通運行をどのようにしていったら良いか意見を聞く人を「会員」としていたが、皆さんの協議を聞いて、「会員」と呼ぶことで混乱が生じる心配を感じた。

【竹内（靖）会長】

会員になる特典も必要だが、サービスの提供として入会金は必要か。

【陸川（昇）委員】

とりあえずは参加者募集とし、人数が少なかったら会員制とした方が良いのではないか。参加人数が多ければ問題ないが、会員になると特典があるということは後から宣伝するのはどうか。

【加藤次長】

資料の中で「事前登録者」と「利用会員」という単語を使っている。一般的に「会員」は、会費を払って登録するイメージになると思う。皆さんの協議を聞き、言葉の整理をする必要があると感じた。例えば、市の公共施設を使う時に、事前登録をすると使用料の減免が受けられる制度がある。単語を整理しないと、その単語が独り歩きしてしまい、「会員になっているのに利用者負担もあるのか」といった負担感を感じさせてしまう。皆さんと相談しながら整理していきたい。

【竹内（靖）会長】

市の言葉の整理にのっとることとする。

【加藤次長】

事前登録をしてもらう際に、利用者自身が自分の行きたいところを事前に把握する必要があり、その前に「こういうメニューがある」と実施者から出すなど、外向きにどういった事業なのかを伝える工夫が必要である。この点についても、引き続き皆さんと相談しながら決めていきたい。

【竹内（靖）会長】

事前登録の内容とカテゴリーの分類を利用者にも分かりやすく定めた上で、利用者を募るやり方で進めていくということでよいか。（異議なし）

2つ目の提案事業「子どものい～場所開設事業」について事務局に説明を求める。

【桐山班長】

非公開資料 No2 を基に説明。

【竹内（靖）会長】

今回提案する「子どものい～場所開設事業」と市が運営する放課後児童クラブ等との線引きについて説明を求める。

【桐山班長】

令和5年8月28日に配付した中郷区地域協議会勉強会資料を基に説明。放課後児童クラブとは、開設日、開設時間が異なる。

【竹内（靖）会長】

前回からの変更点は、終了時の送迎についてである。基本は保護者が17時に迎えに来るとし、どうしても迎えに来ることが出来ない方は送迎するが、大人が家にいることを条件とする。保護者から意見も出ると思うが、今回は検証としてコ

一ディネートしていきたい。委託先として見込んでいる中郷区まちづくり振興会から了解を得ている。

【岡田委員】

（中郷区まちづくり振興会理事長の立場で）中郷区まちづくり振興会の理事会でも報告済みである。

【村越委員】

先に行われた公民館事業に参加したが、子どもも楽しんでいたので理由を聞くと、友達も参加しており、それだけで楽しいという話であった。友達と集まることが出来る場所を作ることが大切だと思った。

【竹内（靖）会長】

友達の家が遠く、自転車で遊びに行ける距離でもないため、集まれる場所があり、そこに通えると有難いと意見をもらった。先日の公民館事業に参加していたのは、積極的にイベント等に参加する保護者であった。少しずつ広まっていけば良いと思う。中郷区内には祖父母と同居しているため、放課後児童クラブを利用できない家庭も多い。このような居場所があれば、祖父母が子守をする時間から解放される機会にもなり、有難いという意見もある。

委託先に任せっきりでなく、団体との調整や計画に地域協議会も協力していきたい。

【高橋（達）委員】

「中郷区型コミュニティバスのあるべき姿検証事業」の話も含むが、地域協議会で地域独自の予算事業に提案した事業の内容の審議は今後もしていくのか。事務局から委員に意見を問いかける際は、委員の宿題的に問いかけ、委員から出た意見をまとめた上で次回の地域協議会に活かすこととしてはどうか。

【竹内（靖）会長】

提案は提案としてまとめ、その後の運営は皆さんの意見を反映しながら進める。「中郷区型コミュニティバスのあるべき姿検証事業」の協議の中であった会員と事前登録の単語の整理については、事前登録としてやっていく。

【陸川（陽）委員】

利用しない可能性があっても事前登録して良いのか。

【桐山班長】

良いと考える。

【陸川（陽）委員】

よく利用している子同士で固まってしまい、利用していない子が外されてしまうことや、その中でないじめがないように注意しなければならないと感じた。

【竹内（靖）会長】

団体の見守り方の工夫など、そういったことが起きないように調整していく。

様々なイベントの中で子どもたちの人間関係を他人目線で見ていると、仲良しグループの枝が広がったり、それがまた仲良くなったりしている。子どもの人間関係は柔軟に動いていくと思う。

【村越委員】

中郷区型コミュニティバスのあるべき姿検証事業について、各地域で避難に介助が必要な人が登録されていると思うが、その人は普段の交通手段にも困っていると思う。その人達も周知してはどうか。

【竹内（靖）会長】

町内会や民生委員など様々な人伝いで、広く事業を知ってもらうことが大切。わかりやすく説明できるものを作っていく必要がある。

【陸川（昇）委員】

周知する時に防災行政無線は使えないのか。

【桐山班長】

地域協議会提案の2つの事業は、市の事業で業務の一部を委託することとして提案するため使用可能である。

【竹内（靖）会長】

耳から情報を入れることも1つである。

中郷区さとまる学校が社会福祉協議会から助成を受けて実施している買い物ツアーの募集時は、民生委員にも案内を出している。民生委員は一人暮らし高齢者等へ周知してくれる。世代によって周知の仕方はそれぞれだと思う。説明は丁寧に行いたい。

【陸川（昇）委員】

防災行政無線は関山演習場訓練の放送がほとんどであるが、こういった周知の放送は興味を持って聞いてくれるのではないか。

【桐山班長】

今後の市の流れを説明する。現在は予算要求資料を地域政策課が確認作業中である。その後、財政課査定、市長点検を受け、3月議会に提案し、議決後予算化される。

【竹内（靖）会長】

市の流れはあるが、事前に皆さんと話し合いを重ねながら準備していきたい。

協議事項(2)視察研修について、前回の会議後の進捗の説明を事務局に求める。

【津島主事】

開催日時は、12月9日（土）午後として創造行政研究所に確認し、今時点では可能と回答があった。ニューズレター記載の「神山町から学ぶまちづくりのポイント」を深掘りした内容での講義を依頼したが、多岐に渡るポイントであるため、どんなテーマで話を聞きたいのか、どんなことを課題と感じているのかを、具体的にしてほしいと回答があった。皆さんから創造行政研究所に聞きたいテーマを教えてください、まとめた上で再度依頼をしたい。

【竹内（靖）会長】

開催日は創造行政研究所の確認も取れたため、12月9日（土）とする。

【高橋（達）委員】

創造行政研究所がフォーラムを受けて7つのポイントにまとめている中で、1番ポイントとなるのは何か教えてほしい。1つに絞らず、2つ3つとなっても良いと思っている。少子高齢化による後継者の問題がある中で、どのようにまちづくりをしていったら良いかを題材にしてもらえれば良い。7つのポイント全てに触れてほしいわけではない。

【竹内（靖）会長】

同じ考えである。何を研究していて、何を地域協議会に訴えたいのか、ということではダメか。

【宮川委員】

創造行政研究所の組織として、学術的な部分が多く、難しいと思う。

私はテーマを過疎とし、過疎化が進んでいるがこの町をどうにかしたい、それにはどういう提案がいいのかといった簡易的な話が良いと思う。

【高橋（達）委員】

テーマを絞るのは良いが、創造行政研究所にも言いたい分野があると思う。

【宮川委員】

今は向こうから何を聞きたいか問いかけられている。創造行政研究所も自負のうえで講義すると思う。

【高橋（達）委員】

講義を聞いてどう受け取るかはそれぞれ違うため、その心配はしなくても良いのではないか。その中で意見交換もあるだろう。

【竹内（靖）会長】

私はこの組織のことも、どんな研究をしているのかも知らないため、逆にそこを知りたい。中郷区地域協議会へのアドバイスのような、刺激的な話をしてもら

ってもいいと思っている。まずは、創造行政研究所が何を 1 番話したいのかを聞くのでどうか。

【津島主事】

皆さんの意見として、創造行政研究所から中郷区地域協議会に伝えたいことはないか確認する。しかし、宮川委員と同様に難しいと感じている。皆さんの意見をまとめた上で、創造行政研究所に依頼したい。

【高橋（達）委員】

創造行政研究所の主催で行われたフォーラムの内容を 7 つのポイントにまとめられた記事を見て、うまく 7 つにまとめられていたため、その内容が盛り込まれた内容で講演してもらえないかと思い、今回の研修会を提案した。

【竹内（靖）会長】

自主的審議事項で子どもの居場所と公共交通の 2 つに絞って地域独自の予算事業にまとめた。今後事業を進めるのを見据え、「過疎地域における子どもの居場所の作り方」というのでどうか。

【陸川（昇）委員】

少しでも過疎を抑え、出来れば人口を増やすにはどうしたらいいのかという話をまずしてもらった方が良いと思う。その話をしているうちに子どもの居場所などに繋がってくるだろう。

【高波所長】

より具体的な委員の意見をもらえた方が事務局も交渉しやすい。この 7 つのポイントから選んでもらっても良いし、中郷区の特性に着目したテーマでも良い。

【宮川委員】

時間が限られてしまうため、ポイントを絞らないと内容が広く浅い講演となる。もう少し深い内容にしたいというのが創造行政研究所の考えだろう。

【竹内（靖）会長】

皆さんの意見をまとめ、「過疎地域における子育てと交通の話」でどうか。

【加藤次長】

配布資料はニューズレターの一部だが、表紙は「持続可能な地域づくり」という大きなテーマになっている。高橋（達）委員からの発案を受け、創造行政研究所に記事以上のことを伝えてほしいとお願いしたところ、中郷区に置き換えた時に、どんな視点で聞きたいのかと回答があった。中郷区独特の課題を伝えるだけでも、創造行政研究所で講演内容を検討出来ると思う。皆さんから発言いただき、感触を受け止めて、事務局から創造行政研究所へ返したいと思っている。

【竹内（靖）会長】

地域独自の予算事業提案に合わせた、公共交通と子育てのテーマとする。

意見交換ではなく、講演を聞き、それに対する質問を1人、2人がする流れでどうか。

【高橋（達）委員】

私としては、7つにまとめられたポイントから選ぶとすれば『『創造的過疎』を目標に』と「人に寄り添い、人をつなぐ夢を一緒に育む」を選ぶ。

【竹内（靖）会長】

高橋（達）委員の意見も含める。私も初心に戻り、創造行政研究所の話を知りたいと思う。忙しい時期だと思うが、都合をつけて全委員から参加いただきたい。

前回の会議で、地域協議会委員以外にも声がけをするか問いかけたが、人数が増えすぎても良くないし、どちらかというところ、これからのまちづくりを担う世代に声がけをしたい。

研修会場はどうなるか。

【津島主事】

は一とぴあ中郷の研修室を想定している。

【竹内（靖）会長】

研修会場のイメージは、地域協議会と地域で活動している若手が参加し、皆さんが聞きやすいシチュエーションを作りたい。

時間は決まっているか。

【津島主事】

時間はまだ決まっていない。意見交換を含めたいかどうかで変わると思っていた。2時間程度になるのではないか。

【竹内（靖）会長】

講演時間に左右されるのではないか。意見交換は長くは取らないようにする。

【津島主事】

全体で2時間程度になるよう相談する。午後の時間帯に開催で良いか。

【竹内（靖）会長】

承知した。委員の皆さんからは12月9日（土）午後の予定を空けておいていただきたい。

以上で協議は終了する。その他、あるか。

【津島主事】

配布物の確認。

【竹内（靖）会長】

11月11日（土）に「上越市の地域自治区制度と住民自治を考える集い」がある。私もパネラーとして出演する。都合がつけば参加いただきたい。

（中郷区さとまる学校理事長の立場で）華響を11月25日（土）に開催する。上越市初のプロジェクションマッピングを使った舞台公演となっており、ストーリー性を持った発表を準備している。当日スタッフとして協力いただける方は個別に声をかけてほしい。

次回の地域協議会は11月27日（月）18時30分から中郷コミュニティプラザで行う。

本日の地域協議会終了後、地域協議会だより編集委員会を行う。以上で、本日の地域協議会は終了とする。

9 問合わせ先

中郷区総合事務所 総務・地域振興グループ

TEL：0255-74-2411（内線165）

E-mail：nakago-soumu.g@city.joetsu.lg.jp

10 その他

別添の会議資料もあわせてご覧ください。